

投稿規定

- (1) 掲載後の論文の著作権は、日本核医学会に属し、その全部または一部を如何なる方法によっても無断で出版、複製してはならない。
- (2) 利益相反状態の開示義務
「核医学」に掲載するすべての著者は、投稿時に「一般社団法人日本核医学会における臨床研究の利益相反管理に関する指針—施行細則」に定める「著者の利益相反に関する自己申告書」(書式2)により利益相反状態を明らかにし、提出しなければならない。「一般社団法人日本核医学会における臨床研究の利益相反管理に関する指針」で規定された利益相反状態にある企業や団体がある場合には、その企業名や団体名を論文末尾に記載すること。利益相反状態がない場合は、責任著者が他の全著者を代表して前記書式を提出してよい。また、論文末尾に「利益相反に該当なし」などの文言を入れ、その旨を明記すること。
- (3) 原稿の内容は放射性同位元素の医学応用に係わる研究およびこれに関連する分野で下記の項目に該当し、他誌(外国誌を含む)に未発表のものとする。なお、基礎および臨床研究のいずれにおいても、生命倫理に充分配慮されたものであること。また、投稿論文に関する臨床研究の臨床試験登録に関して、厚生労働省「臨床試験に関する倫理指針」(平成21年4月施行)の示す介入研究に相当する場合には、公開データベースへの臨床試験登録が必須である(詳細は本指針を参照のこと)。
 - a) **原著**：独創性に富み、目的、方法、結論等の明確な研究論文。
原稿の枚数制限なし。刷上り4頁(図表を含む、以下同じ)まで無料。
 - b) **症例報告**：核医学診断または治療が有用であった稀な臨床経験を簡潔にまとめた論文。
原稿の枚数制限なし。刷上り3頁まで無料。
 - c) **短報**：独創的ではあるが、部分的または断片的な研究を簡潔にまとめた論文。
原稿は、刷上り4頁以内を厳守。無料。
 - d) **技術報告**：技術、装置、医薬品の開発、改良、安全取扱などに関する経験や治験をまとめた実用価値のある報告。
原稿の枚数制限なし。刷上り3頁まで無料。
 - e) **総説**：名誉会員、教育講演者、外国人講演者などに総説を依頼する。
原稿は刷上り5頁を原則とする。無料。
 - f) **編集者への手紙**：掲載論文への意見および回答。
掲載後2ヶ月以内の掲載論文への意見および回答。
原稿は刷上り1/2頁以内とする。
 - g) **学会抄録**：日本核医学会学術総会および地方会発表論文の抄録で400字以内図表なしとし、質疑応答は掲載しない。
 - h) **寄稿、資料、トピックス、ニュース、報告**：原稿枚数は限定せず。無料。
- (4) 原稿の採否、掲載順序、項目は編集委員会で決定する。
- (5) 特に急いで掲載を希望する際は、その旨編集委員会に要請することができる。ただし、特別掲載料を必要とする。アート紙またはカラー写真を希望する場合は実費を著者負担とする。
- (6) 別刷を希望する場合には実費を著者負担とする。
- (7) 投稿原稿には査読のため、正1部のほか副2部をつける。本文・図表はコピーでよいが、写真は正・副計各3枚を必要とする。
- (8) 原稿は書留便にて下記に送付のこと。
(郵便番号113-0021) 東京都文京区本駒込2丁目28番45号 (公社)日本アイソトープ協会本館3階
一般社団法人日本核医学会事務局 電話03-3947-0976 FAX03-3947-2535

* (1998年8月以降の投稿より適用, 2003年5月一部改訂, 2004年6月一部改訂, 2010年2月一部改訂, 2010年3月一部改訂, 2010年9月一部改訂)

執筆上の注意

- 1) 原稿は和文とし、ワードプロセッサ使用、A4判、横書き、30字×27行(810字)で作成し、余白および行間を充分にあけること。(原稿2枚がほぼ刷り1頁に相当する。)原稿本文には希望項目、題名、著者名、著者所属、連絡先、キーワード(英語5語以内)、和文要旨(200～400字)、英文要旨(300語以内)、本文、引用文献、表、図の説明文(英文)の順に記載し、タイトル頁から各頁に通し番号を入れる。図、および写真は別葉とする。要旨の書き方は、①目的、②方法、③結果、④結論を各々簡略に記載する。「臨床試験に関する倫理指針」施行以降に開始された研究で本指針に相当する場合、公開データベース登録が行われている旨およびその登録番号などを要旨末尾に明示すること。臨床試験登録の義務のない後ろ向き研究による論文では、後ろ向き観察研究であることを本文に明記すること。
- 2) 別に題名、連絡者名および連絡先、希望する有料別刷部数を明記した表紙をつける。
- 3) 図表および写真は鮮明なものであること。仕上り寸法は、横6×縦8cmを最小サイズとし、図表に応じて大きさを設定する。設定に関しては原則として編集委員会に一任されるが、特に大きさに希望のある場合は、予め明記する。図および写真には各々裏面に図の番号、著者氏名を記載する。
なお、図表写真内の文字およびその説明には英文を用いる。ただし、図表の転載が必要な時は、著者の責任において転載許可を得た上で記載する。
- 4) 用語は原則として核医学用語集(日本アイソトープ協会編)に準ずること。日本語訳語のあるときは、出来るだけ日本語を用い、英文を用いるときは原則として小文字を使用する。
- 5) 単位の表示には原則としてSI単位を用いること。
- 6) 放射性医薬品名については本文中で最初に記載する時に、化学名(日本語または英語)を記載し、以後略称を用いる場合にはかっこ書で付記する。題名の中では一般化した略語は用いてよい。英文抄録では最初に用いる時に化学名を記載し、以後略称を用いる場合はかっこ書で付記する。タイトルの中では一般化した略語は用いてよい。病名、装置名等も、最初は省略せずに記載し、以後は略語を用いてもよい。核種の表記は元素記号の左肩に質量数を書く。(例^{99m}Tc, ¹¹¹In, ⁶⁷Gaなど)
- 7) 引用文献について
 - a) 引用文献は掲載が決定されているものは可とする。
 - b) 引用文献としてパンフレットないしメーカー主催の研究会における記録集は認められない。
- 8) 引用文献の記載方法
 - a) 記載順序は引用順とし、1), 2), 3)...と続ける。
 - b) 欧文雑誌は、Index Medicusにならう。ただし、著者名は6名まで記載し、以下はet alとする。
[例] Virgolini I, Raderer M, Kurtaran A, Angelberger P, Banyai S, Yang Q, et al: Vasoactive intestinal peptide-receptor imaging for the localization of intestinal adenocarcinomas and endocrine tumors. *N Engl J Med* 1994; 331: 1116-1121.
 - c) 和文雑誌は、著者名、題名、雑誌名、年号(西暦)、巻数、頁の順とし、著者名は6名まで記載し、以下は他とする。
[例] 久保敦司, 橋本 順, 中村佳代子, 岩崎隆一郎, 宮崎知保子, 油野民雄, 他: 多施設による^{99m}Tc-MAG3腎機能定量解析の精度の検討. *核医学* 1997; 34: 1101-1109.
 - d) 著書は和・欧文ともに、著者名、論文名、編集者名、書名、発行社名、発行地名、発行年(西暦)、頁の順で記載し、著者名は全員を記載する。分担執筆の場合、分担者が明記してある場合はこれを記載する。
[例] 村田 啓: 心筋血流シンチグラフィ. 久田欣一, 古舘正従, 佐々木康人, 小西淳二編, 最新臨床核医学. 金原出版, 東京, 1991: 255-270.
[例] Rauschnig W: Brain tumors and tumorlike masses: Classification and Differential Diagnosis. In: Osborn AG, ed. *Diagnostic Neuroradiology*. Mosby-Year Book, Inc., St. Louis, 1994: 401-528.

 賛助会員名簿

会社名	☎	住所	電話番号
日立アロカメディカル株式会社	181-8622	三鷹市牟礼 6-22-1	0422 (45) 5111
株式会社 島津製作所	604-8442	京都市中京区西ノ京桑原町 1	075 (823) 1268
富士フイルム RI ファーマ株式会社	104-0031	中央区京橋 2-14-1 兼松ビルディング	03 (5250) 2600
東芝メディカルシステムズ株式会社	324-8550	大田原市下石上 1385	0287 (26) 6211
塩野義製薬株式会社 創薬・探索研究所	561-0825	豊中市二葉町 3-1-1	06 (6331) 8237
株式会社 日立メデイコ	101-0021	千代田区外神田 4-14-1 秋葉原 UDX 18 階	03 (3526) 8340
GEヘルスケア・ジャパン株式会社	191-8503	日野市旭が丘 4-7-127	042 (585) 5151
日本メジフィジックス株式会社	136-0075	江東区新砂 3-4-10	03 (5634) 7006
株式会社 ティエフビー	171-0021	豊島区西池袋 1-18-2 藤久ビル西 1 号館 5F	03 (5951) 1186
セテイ株式会社	100-0013	千代田区霞ヶ関 3-6-7 DF 霞ヶ関プレイス	03 (3403) 0331
住友重機械工業(株) 量子機器事業部 品質保証部	792-8588	愛媛県新居浜市惣開町 5-2	0897 (32) 6370
公益社団法人日本アイソトープ協会	113-8941	文京区本駒込 2-28-45	03 (5395) 8021
シーメンズ・ジャパン株式会社	141-0022	品川区東五反田 3-20-14 高輪パークタワー	03 (5423) 8422
安西メディカル株式会社	141-0033	品川区西品川 3-6-25	03 (3779) 1611
住重加速器サービス株式会社	141-0032	品川区大崎 1-17-6 日昇ビル 4 階	03 (5421) 8522
株式会社 千代田テクノ	113-8681	文京区湯島 1-7-12	03 (3816) 5256
バイエル薬品株式会社	530-0001	大阪市北区梅田 2-4-9 プリーセンター	06 (6133) 7500
株式会社 エスアールエル	192-8535	八王子市小宮町 51	0426 (48) 3775
第一三共株式会社	103-8234	中央区日本橋 3-14-10	03 (3246) 7160
佐藤製薬株式会社	107-0051	港区元赤坂 1-5-27	03 (5412) 7310
フィリップスエレクトロニクス ジャパン	108-8507	港区港南 2-13-37 フィリップスビル	03 (3740) 3049
株式会社 マイクロン	100-0005	千代田区丸の内 3-8-1 住友不動産丸の内ビル	03 (6268) 0305
JFE テクノス株式会社	230-0045	横浜市鶴見区末広町 2-1	045 (505) 6522
日本イーライリリー株式会社	651-0086	神戸市中央区磯上道 7-1-5	078 (242) 8163
アステラス製薬株式会社	305-8585	つくば市御幸が丘 27	029 (863) 7198
株式会社 セルード	169-0075	新宿区高田馬場 1-31-18	03 (5285) 5039
株式会社 アトックス	650-0047	神戸市中央区港島南町 2-1-11 市民病院前ビル	078 (599) 6851
ノバルティスファーマ株式会社	106-8618	港区西麻布 4-17-30	03 (3797) 5627
大正製薬株式会社	170-8633	豊島区高田 3-24-1	03 (3985) 1111
ファイザー株式会社	151-8589	渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル	03 (5309) 7000
ラドセーフテクニカルサービス株式会社	101-0021	千代田区外神田 3-10-12	03 (3255) 2691
三田理化工業株式会社	531-0076	大阪市北区大淀中 2-8-2	06 (6458) 0971
株式会社 ワカイダ・エンジニアリング	174-0043	板橋区坂下 3-27-7	03 (3969) 3339 (御入会順)

編 集 後 記

ANM は変革期にきています。

ANM は国際誌として羽ばたくことを目指し、当時の理事長久田欣一先生をはじめとするリーダーの諸先生の高い志のもとに 1987 年に創刊されました。歴代の編集委員長が数々の改革を行いつつ、玉木前理事長の編集委員長時代にオンラインジャーナルの構想が練られ、井上現理事長の編集委員長時代に 2006 年にオンライン化されました。2001 年に獲得した IF 0.503 は、歴代編集委員会による種々の改革により 2011 年に 1.502 に至りました。改革には、会員の皆様の投稿意欲の向上と真摯な査読も含まれています。皆様に感謝申し上げます。

さて、ANM は毎年約 1000 万円弱の科研費（研究成果公開促進費）を獲得しています。これまでこの科研費は出版経費補助として交付されていましたが、大きく方向転換され、来年度の応募から“国際情報発信強化”が主目的と設定されました。その 1 つとして雑誌のオープンアクセス (OA) 化を目指すことが求められています。OA とは、著者が出版に関わる経費 (article processing charge, APC) を負担することによって、学会員であるなしを問わず、すべての人が無料で論文を閲覧できることを意味します。OA 化は科学雑誌の世界全体の潮流となりつつあります。OA 化により雑誌・論文の国際的な露出度が

飛躍的に増大するため、皆様の研究を今以上に世界に反映させることができます。雑誌にとっては引用増加による IF 上昇が期待できます。

ANM は、契約している Springer 傘下の BioMed Central (BMC) で OA 化可能です。しかし、核医学関連の他誌が APC を求めている (つまり OA 化されていない) 現状で、ANM がこれを実施すれば、APC (BMC では約 13 万円) が足枷となり投稿数が減少するリスクがあります。したがって、世の流れに従い将来 OA に移行するにしても、当初は APC の学会負担が必要であると考えます。その実現には、学会の出版事業内容全体の改革による出版事業の経費バランス改善が不可欠です。また種々の方策を講じることで IF のさらなる向上を図り、APC があっても ANM に投稿していただける環境を作る必要があります。このような考えに基づき、ANM の冊子体廃止 (完全オンラインジャーナル化)、「核医学」掲載の和文論文の J-stage を利用したオンライン化などを実施することが、理事会および総会で承認されました。

今後複数年にわたって、種々の改革が行われる予定です。「国際情報発信強化」科研費を獲得するための変革ではなく、科研費を利用し ANM をステップアップさせるためです。その都度、会告などで皆様にお知らせいたします。時に応じて、意見徴集を行うかもしれません。ANM を一層の高みに上げるため、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。(金沢大学 絹谷 清剛)

核 医 学 編 集 委 員 会

委員 長 :	絹 谷 清 剛	(金沢大学医薬保健研究域医学系核医学)
副委員 長 :	佐 賀 恒 夫	(放射線医学総合研究所 分子病態イメージング研究プログラム)
委 員 :	犬 伏 正 幸	(放射線医学総合研究所 分子病態イメージング研究プログラム)
	金 田 朋 洋	(東北大学病院 放射線診断科)
	河 邊 讓 治	(大阪市立大学大学院医学研究科 核医学科)
	河 村 和 紀	(放射線医学総合研究所 分子認識研究グループ)
	久 慈 一 英	(埼玉医科大学国際医療センター 核医学科)
	坂 本 攝	(獨協医科大学病院 PET センター)
	田 代 達 也	(東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター)
	東 瀬 学 也	(滋賀県立成人病センター 研究所)
	百 瀬 満	(東京女子医科大学 画像診断・核医学科)
	渡 部 浩 司	(大阪大学大学院医学系研究科 医薬分子イメージング学寄附講座)

「核 医 学」第 49 卷 4 号 平成 24 年 11 月 30 日 発行 本号定価 ¥1,800

編集兼発行者 絹 谷 清 剛

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-28-45 (公社)日本アイソトープ協会本館 3 階

発 行 所 一 般 社 団 法 人 日 本 核 医 学 会

振替口座 00180-5-741770 番

電話東京 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail : anm@xvg.biglobe.ne.jp

ホームページ : <http://www.jsnm.org/>

印 刷 所 株 式 会 社 海 川 企 画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 2-51-1

電話 (03) 3806-0961 (代) FAX (03) 3806-0848

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8 電話 (03) 5226-2791 (代) 日本医学広告社